

—大腸カメラの説明・同意書—

[目的]

内視鏡を用いて大腸や肛門を観察し、大腸炎や大腸潰瘍、ポリープや悪性腫瘍、痔などの治療が必要な病気がないか調べます。

[前処置や検査方法]

- ① 数日前から消化に良いもの、前日は当院で用意した検査用食を食べて下さい。前日の就寝前に下剤（ラキソベロン）をコップ1杯（200ml程度）の水分で服用して下さい。
- ② 当日朝7時から下剤（モビプレップ、飲み方については別紙を参照）を服用して、無色から黄色透明な水様便になりましたら当院に連絡して下さい。下剤を飲み終えてから来院していただくまで約1～2時間程度あり、その間はしっかりと水分（水やお茶）摂取をして下さい。
- ③ 検査前に鎮痛薬（ペチジン塩酸塩）を投与してから、内視鏡スコープを肛門から盲腸まで挿入します。その後、空気で腸管を広げながら大腸や肛門を観察します。検査時間は15-20分程度です。ただし、疼痛や癒着などにより観察範囲が限られてしまう場合があります。
- ④ 必要があれば病理組織の検査（生検）をして、確定診断を付けます。また、必要があれば検査終了後に鎮痛薬の拮抗薬（ナロキソン塩酸塩）を投与します。

[偶発症]

- ① 前処置による嘔吐・誤嚥や腸閉塞
- ② 鎮痛薬やその拮抗薬による副作用（血圧低下、呼吸抑制、静脈炎、肺水腫など）
- ③ 内視鏡による粘膜損傷（出血や穿孔）や生検後の出血

検査に伴う偶発症を発生する危険性があります。日本消化器内視鏡学会での報告は、全体の発生頻度は0.01%程度です。

[事前検査]

感染症（B型肝炎、C型肝炎、梅毒）の有無を採血で確認します。

[注意事項]

- 前日の夜20時以降は絶食ですが、前日夜や当日朝の飲水制限はありません。
- 就寝前の睡眠薬などはいつも通り内服して下さい。また、朝分の降圧薬などは朝6時までに内服して下さい。
- 抗凝固薬や抗血小板作用薬、糖尿病薬などを服用している方は、指示通りの内服や休薬方法を守って下さい。
- 当日は12時頃に来院して頂く予定です。検査や検査で用いた薬剤により一時的に体調に負担が生じる可能性があり、車やバイク、自転車での来院は控えて下さい。
- 生検した当日の運動や飲酒は控えて下さい。

[大腸カメラ同意書]

私は、目的や方法・偶発症の説明を受けて理解した上で、検査を受けることに同意します。

_____年____月____日

患者氏名： _____ 緊急連絡先：（続柄 _____） - _____